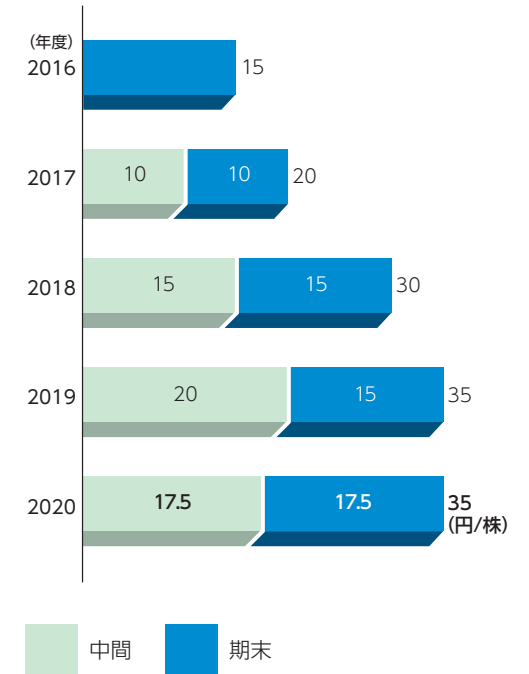
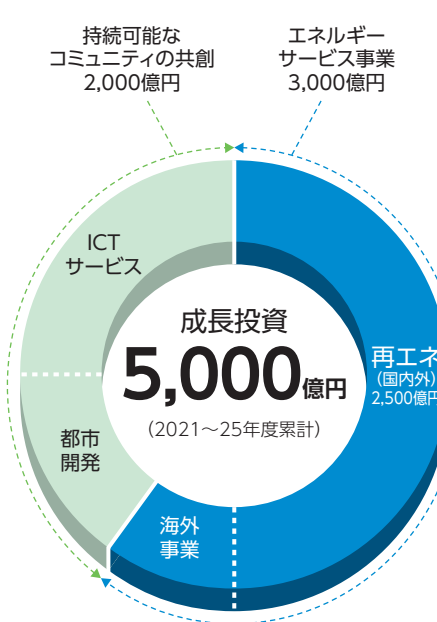
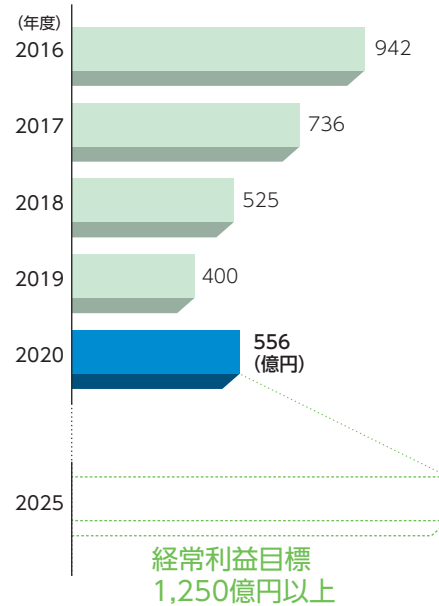
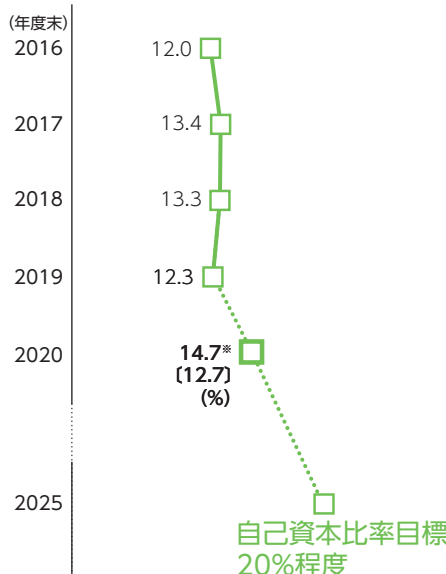
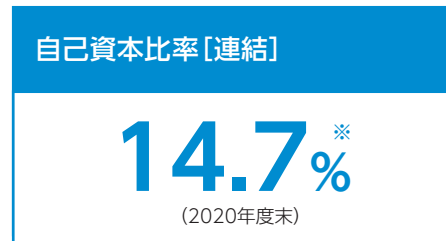


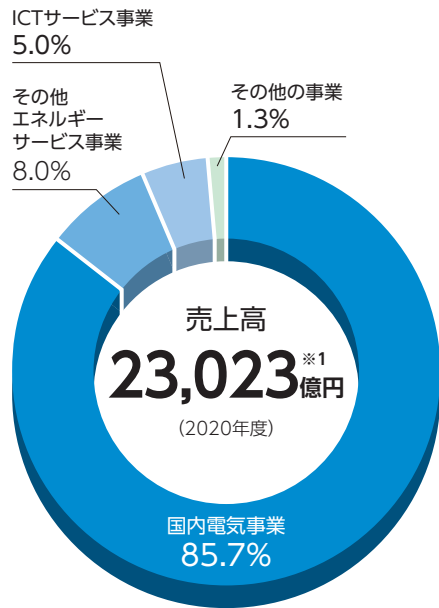
財務・非財務ハイライト



※:ハイブリッド社債(2020年10月発行)の資本性認定分(約2%)を含む
〔 〕内はハイブリッド社債の資本性認定分を含まない

売上高に占める国内電気事業の割合(連結消去前)※1

85.7%
(2020年度)

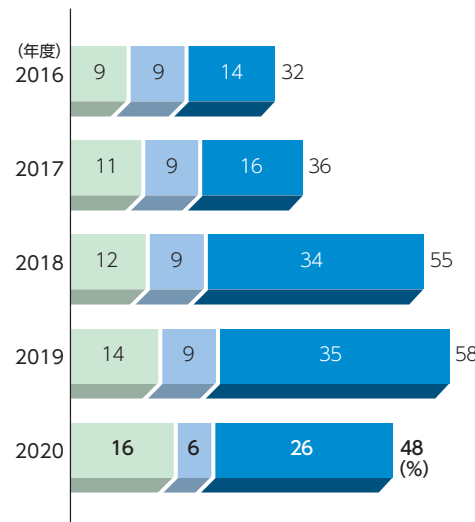


九電グループは、九州電力、子会社64社及び関連会社38社で構成されています。(2021年3月末現在)

※1:セグメント間の内部取引消去前

国内電気事業におけるゼロエミ・FIT電源比率※2 [九州電力]

48%
(2020年度)

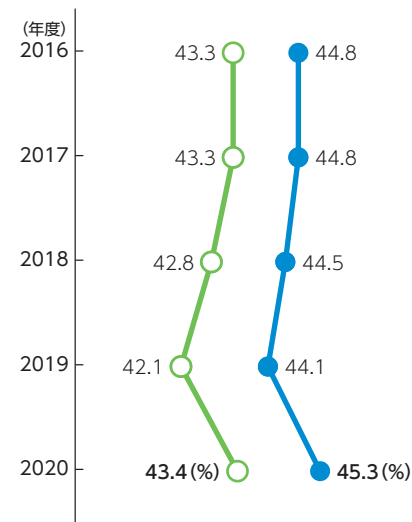


■ 原子力
■ 再生可能エネルギー (FITを除く)
■ FIT電気

※2:九州電力の発電電力量及び他社から調達した電力量に占める比率を示したものであり、非化石証書取引前の数値(注)上記のうち、非化石証書を使用していない部分は、再生可能エネルギーとしての価値やCO₂ゼロエミッション電源としての価値は有さず、火力発電などを含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。

火力総合熱効率(発電端) [九州電力]

45.3%
(2020年度(低位発熱量※3基準))



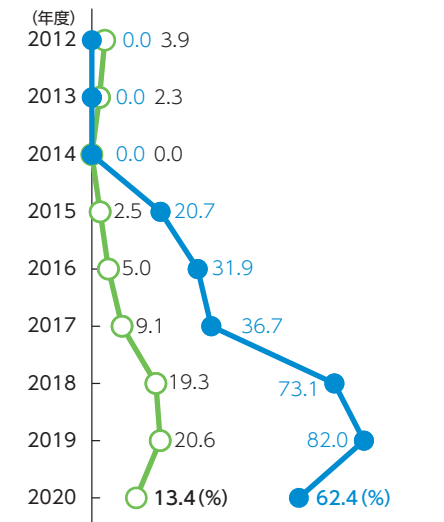
● 発電端
○ 送電端

2019年12月に営業運転を開始した松浦発電所2号機を始めとした、熱効率の高い石炭火力発電所・LNG火力発電所を運転したことにより、九州電力における火力総合熱効率は、45.3%(発電端)と1.2ポイント向上しました。

※3:燃料が燃焼した時に発生する発熱量(生成された水蒸気の蒸発潜熱を除く)

原子力発電所設備利用率 [九州電力]

62.4%
(2020年度)



● 九州電力
○ 全国平均

安全・安定運転を継続しており、2020年度の設備利用率は62.4%と全国平均よりも高い水準を維持しています。

販売電力量あたりのCO2排出量 [九州電力]

0.479 (調整後排出係数)
kg-CO₂/kWh
0.365 (基礎排出係数)
kg-CO₂/kWh
(2020年度)

地熱発電の設備容量 [九電グループ]

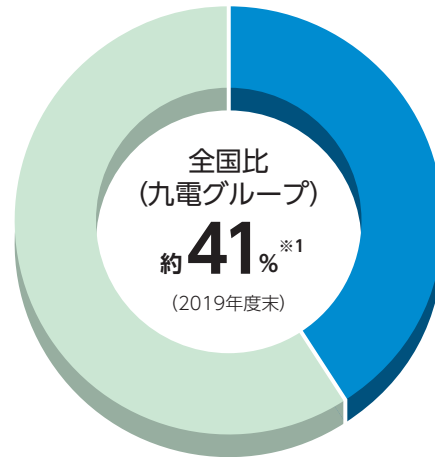
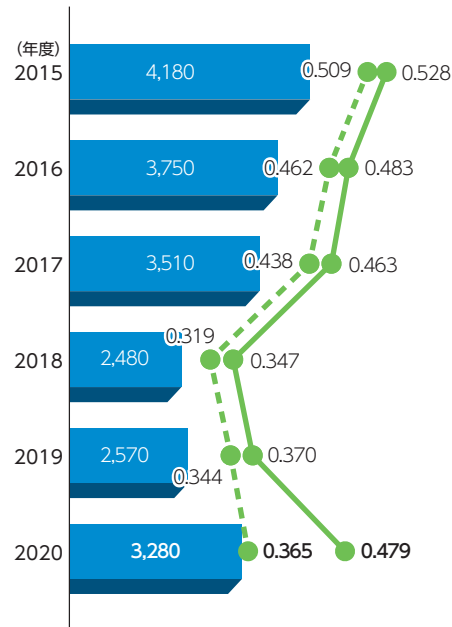
22.2万kW
(2020年度末)

太陽光・風力発電の接続量 (離島を除く)

1,088万kW
(2020年度末)

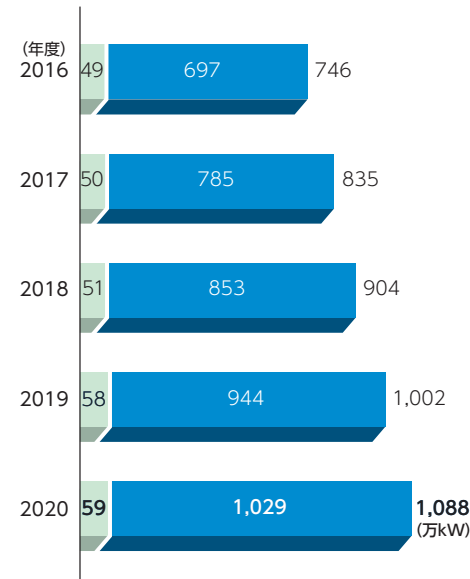
労働災害事故発生割合^{※2}の推移 [九州電力及び九州電力送配電]

0.05
(2020年度)



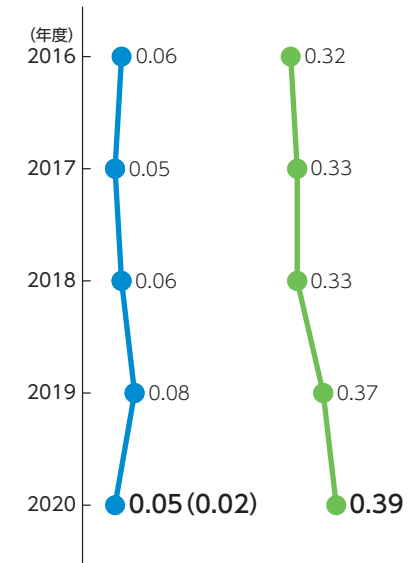
※1: 火力原子力発電技術協会「地熱発電の現状と動向」より

九電グループは、日本最大規模の八丁原発電所をはじめ、全国における約41%の地熱発電設備を保有しています。



風力 太陽光

九州本土に導入された太陽光及び風力発電の接続量は、約1,088万kWとなりました(2021年3月末時点)。九州における太陽光及び風力発電のFIT接続量は、全国の約17%を占めています(2020年12月末時点)。



全国全産業平均 九州電力及び九州電力送配電

※2: 20万延べ労働時間あたりの有休災害件数 (注) 2020年度 ()内は九州電力のみの数値

全社横断的に安全活動を推進するため、九州電力安全推進委員会等の社内体制を整備し、九州電力安全推進基本方針に則り、各部門共通の取組みを実施しています。

(注) 調整後の値は、CO₂排出クレジット、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)に伴う調整等を反映